

日本大学芸術学部



校友会報

平成28年5月発行
2016年春季号

96

C O N T E N T S

平成 28 年度総会のご案内	2	岩手江古田会総会	12
第 10 回日藝賞決定	3	台湾江古田会総会	12
日藝賞 創設 10 周年記念対談〔林真理子 × 中園ミホ〕	5	岡山江古田会総会	13
公開制作〔荒井良二〕	6	江古田会各支部連絡表	13
皆さん今日は！	7	学部ニュース	14
日藝の卒博開催	11	学科ニュース	14～19
秋田江古田会総会	12	編集後記	19

INFORMATION

平成28年度

総会のご案内

議題

1. 会務報告
2. 会計報告
3. 予算審議
4. 推薦校友
5. その他

総会終了後、ただちに懇親会に移ります♪

2016

6.18 [土] 午後 5:00

※ご出席のはがきを是非お出ください。

会費

喜寿を越えられた卒業生……ご招待
それ以外の卒業生……………3,000円

懐かしい友達に
会えるかも

参加して
みようかな♪

場所：☎ 日本大学芸術学部内 TEL. 03-3554-5363

※当日、正門にてご案内致します。

第10回日藝賞決定

毎年活躍した校友二名を表彰し賞金とトロフィーを授与する「日藝賞」の第10回受賞者が決定し、4月5日の入学歓迎式において授賞式が行われました。



池松 壮亮氏



中村 獅童氏

第10回「日藝賞」受賞者について



池松 壮亮【俳優】

日本大学芸術学部映画学科卒業
(平成24年度卒業)

代表作品

テレビ

「義経」「風林火山」
「とんび」「MOZU Season1.2」

映画

「ラストサムライ」「鉄人28号」
「砂時計」「DIVE!!」
「愛の渦」「ぼくたちの家族」
「春を背負って」「海を感じる時」
「紙の月」「バンクーバーの朝日」
「愛の小さな歴史」「劇場版 MOZU」
「シェルコレクター」「無伴奏」「海よりもまだ深く」
「セトウツミ」「デスノート2016」 他多数出演

受賞歴

「第5回 TAMA 映画賞最優秀新進男優賞」2013年
「第27回日刊スポーツ映画大賞助演男優賞」2014年
「第36回ヨコハマ映画祭最優秀助演男優賞」2014年
「第88回キネマ旬報ベスト・テン助演男優賞」2014年
「第38回日本アカデミー賞新人俳優賞」2014年
「第57回ブルーリボン賞助演男優賞」2014年
「第39回エランドール賞新人賞」2014年
「第24回日本映画プロフェッショナル大賞主演男優賞」2014年 他多数受賞



中村 獅童【歌舞伎俳優】

日本大学芸術学部演劇学科入学
(平成4年度入学)

代表作品

歌舞伎

「義経千本桜」: 狐忠信役
「怪談乳房榎」: 磯貝浪江役
「菅原伝授手習鑑・車引」: 松王丸役
「船弁慶」: 弁慶役
「あらしのよるに」: 狼がぶ役

テレビ

「春日局」「毛利元就」「武蔵 MUSASHI」
「新撰組!」「八重の桜」

映画

「ピンポン」「いま、会いにゆきます」「隣人13号」
「男たちの大和/YAMATO」「ハチミツとクローバー」
「デスノート」「デスノート the Last name」
「硫黄島からの手紙」「レッドクリフ Part I・Part II」
「ガッチャマン」「銀の匙 Silver Spoon」「振り子」
他多数出演

受賞歴

「日本アカデミー賞」2003年
「ゴールデン・アロー賞」2003年
「ブルーリボン賞」2003年
「日本映画批評家大賞」2003年
「毎日映画コンクール各新人賞」2003年
「日本アカデミー賞優秀助演男優賞」2004年
「日刊スポーツ映画大賞助演男優賞」2004年
「ゴールデン・アロー賞演劇賞」2005年
「第4回 COTTON USA アワード」
『Mr.COTTON USA』2007年
「第6回沖縄国際映画祭『TV DIRECTOR'S MOVIE』部門主演男優賞」2014年 他多数受賞

11月3日、芸術学部祭最終日の午後10時に記念対談のチケット(無料)の配布が始まるが、25分で用意されたチケットは全て無くなってしまう。

開場の12時45分。江古田校舎中ホールで入場を待っていた長蛇の列が動き始める。席に着くと、舞台には丸テーブルと2脚のイスが置いてある。会場内は在校生と思われる若い女性が多く、あっという間に満席。

林真理子さんは、文芸学科50年度卒業で第5回日藝賞受賞。中園ミホさんは、放送学科56年度卒業で第9回日藝賞受賞。今日の対談は、とあるバーでお二人がプライベートで飲んでいて、観客は隣の席で耳をそばでている客という設定になっている。

最初は野田慶人学部長の挨拶。「創設10周年になる日藝賞の記念企画として、これまでに日藝賞受賞をした方で何か企画出来ないか。と話したところ、お二人は私生活でも親交が深く、普段も一緒にお飲みになっているということを知り、今日の日を迎えた。」と記念対談の経緯を話され、いよいよお二人が登場。

林真理子さんはグレーのタートルネックとグレーのジャケットに黒いスカート。中園ミホさんは白地に淡い色模様も華やかなパンツスーツ姿。

バーテン「あちらのお客様(野田学部長)からです。」とお二人のグラスに

ラズベリー系アロマのローズシャンパンを注ぐ。ジャズが流れるなかトークショーの始まりだ。

林「私の高校時代はテレビによく日芸が出ていて、芸能人も在学しているというので日芸に憧れていました。高校時代はDJをしていたこともあり放送学科も考えましたが、あまりにも倍率が高かったので文学部に近い文芸学科を志望しました。」

中園「本当に放送学科の倍率は高かったですよね。私は推薦だから入れたんですけど。

高校の担任の先生から『お前に向いている学校があるよ。』と言われて決めました。』(笑)

林「私の学生の時は江古田駅から学校まではのどかで、正門前には甘味屋さん、お蕎麦屋さん、東宝パーラーがありました。よくジローでお茶をし、文芸座へも行きました。テニス部に入り、テニス部のマリちゃんと呼ばれていました。』(笑)

中園「私は黒田武士で一杯ひっかけてから学校へ行ったり、江古田文化という映画館で日活ロマンポルノを観たり……、今思えばひどい学生生活です。』(笑)

会場はお二人のユーモア溢れる会話に引きこまれてしまう。

中園「学校内にはすでに活躍している方が何人かいらして、真田広之さん(第3回日藝賞受賞)が学食に居ると聞くと見に行きました。テレビ局でアルバイトをしている方も多く在学していて、そんな人たちを見ると焦りました。』

林「中園さんは十数社の就職試験に落ちただけだから良いけど、私は数十社の就職試験に落ち、コピーライターという仕事があるのを知って小さなプロダクションで働きましたが、自分の知らないことが多くて苦労しました。』



中園「広告代理店で働きましたが、ファックスの送り方も知らなくて、原稿そのものが相手先に届くと思ひ込んでいて、トレーに原稿が残っているので何度も何度も同じ原稿を送ったこともありまして。ほんとに世間知らずのダメなOLでしたね……。」

林真理子さんが31歳で直木賞を受賞した時、中園ミホさんは26歳。

中園「26歳の頃は、知り合いの占いの師の代わりに占いをしていた時もあります。その後、一目惚れした男性が脚本家だったのですが失恋してしまい、同じ仕事につけば会えると思ひ(笑)、脚本家の道に進んで、29歳で

脚本家デビューをしました。」

林「小説家は出版社の人とお付き合いしかなく、脚本家は俳優さん方とお付き合いがあり、華やかでないなあと思います。小説家は密室の中でトランス状態が快感でないできません。長年書いている雑誌の連載も、私の孫の世代が読むくらいになっています。あれもこれも書きたいと思いますが、60歳を過ぎると自分を酷使しないと書けません。」

林「中園さん、学生の皆さんに何か言いたい事はありますか？」

中園「今日はありがとうございます。余談ですが……、一昨日買った金のイヤリングをしてきたのに、今日落としてしまいました。見つけたら本部に届けてください。」(笑)

どんなアドバイスの言葉が出るのかと期待していた会場は、中園さんの言葉にどっと湧く。

林「変わったことをするのが『個性』と思われがちですが、普通でいなければと思ってもはみ出してしまう、押さえつけてもはみ出してしまうものが『個性』だと思います。そういうエネルギーを作って欲しいです。」

軽妙なお二人の1時間半のトークショーは最後に心に残る言葉で終了した。

観客たちはトークショーに満足し、金色のイヤリングが落ちていないかと床を見ながら会場を後にしたのだった。

荒井 良二

“古より生まれ出た創造のモジャモジャは今日も転がってんだよ”

11月10日(火)大ホールに於いて荒井良二の公開制作が行われた。

縦1.8M 横8Mの石膏ボードに具材はリキテックス、鉛筆、マジック、墨汁等を使用した。

最初のひと筆は何色か？と興味しんしんで待っていた。

黄色とピンクでスタートした。あっ荒井良二の色だ。と思った。

段ボールの紙を筆代わりに両手の手のひら、10本の指をキャンバスに自由自在になでたり、こすったり、たたいたり、時には飛びあがった

り手法は体全体だった。作業中はお手伝いの美術学科の学生と和やかに会話をしつつ完成までの時間を共有した。

何が出来上がるだろうと4時間余りを越える作業だった。出来上がる



公開制作

につれてキャンバスは力強く引きこまれる強い色合いで、しかし、そんな中にも荒井良二のきれいな色があり大作が出来、最後には、ボブディランのレコードを貼り付けた。まるでライブコンサートのように真っ白な

キャンバスから見事な絵が完成するまでを休むことなくステージいっぱい走り抜け描く姿を直接みるのが出来たことは、大変有意義だったと思います。

この作品には、まだ続きの加筆があるそうです。

それも自由人の荒井良二たるゆえんか！

皆さん今日は！

本年より皆様の仲間入りをします。どうぞよろしく。

●黒石 あみ（写真学科卒）

小学生だった頃、夏休みになると家族で祖父母の家に毎年遊びに行っていた。居間には父のアルバムがあり全員が揃うと、自然とアルバムを開いて見ていた。物忘れの多い祖父母も昔の写真を見るとその当時の話を鮮明に思い出し、色々なことを話してくれたこの時間が好きだった。写真には大切な記憶まで記録できる力があると感じ、写真が好きになった。

その頃から将来の夢はカメラマン。その夢に近づく為、日藝の写真学科に入学した。暗室作業や機材の扱い方など基礎から学び、再撮に苦しんだ1、2年。所沢から江古田に移ってからは、広告写真や、ポートレート、建築写真、報道写真等様々な授業に取り組んだ。知らなかったことばかりで、この4年間は毎日が刺激的で楽しかった。こんな生活が送れたのも、先生方の真剣なご指導と周りの先輩方や友達の支え、そして何より家族の応援があったからこそである。

ありがたいことに写真関係の職につくことができた。この22年間で出会い、支えて来てくださったたくさんの方々への御恩を忘れる事無く、幼い頃からの夢をかなえる為にこれからも頑張っていきたい。

●小堀 弘（写真学科卒）

進学相談で忌憚のない説明を聞かせて頂いた。その誠実さに惹かれ日芸写真学科入学の決意をしました。あれから4年が過ぎようとしています。振り返れば、「今日は入学試験なので一



般の人は入校禁止です」。

娘が付き添いの入学歓迎式では、学生と父兄が分かれる岐路で「逆です、学生はこちらで、父兄はこちらです」。入学後も「非常勤講師の方はこちらです」等々、間違えられた事は枚挙に遑がありません。それだけ関係者の方々に煩わせた事になりお詫び申し上げます。大きな希望と、沢山の小さな不安を抱きながら成長していく学生達に、時には人生の先輩として、時には同期の学生として接してきましたが、逆に私が学生達からとても大きなエネルギーを貰っている事に気付くのに、そう時間は掛かりませんでした。

若しかしたら疎ましい事もあったかもしれないのに、特別扱いせずに接してくれた学生達や先生方、助手さん達のお陰で私は素晴らしい学生生活を送ることが出来ました。皆さん本当にありがとうございました。

私は、4年間で沢山の事を学びましたが、更に研究したい事があり大学院に進む事にしました。もう少し頑張ります。

●池田 絢太（映画学科卒）

大学生活は、どうせ遊んで過ごす4年間になるなら自分が学んでみたいものを学ぼうと映画学科へ入りました。そう言いつつも、自主制作を積極的に行う4年間ではなく、ダラダラと過ごした4年間という感じで、いざ卒業するとなると、もっと意欲的に過ごせばよかったと少し後悔しています。しかし、無駄な4年間だったという訳ではなく、この学校で自分はそのことを学べたし、少し成長出来たなと思います。映像制作を通して、自分が弱い人



間だということ、人と協力することの大切さ、人に支えてもらっているんだということを学べました。映像制作はひとりでは出来ません。自分でカメラを回して、演技をして、録音もして、映像をチェックするなんて不可能です。各コースの仲間と支え合って共に頑張ることでひとつの作品を作ることが出来る。ひとりでは何も出来なくても、支えてくれる仲間と協力すれば出来ることを学びました。

この4年間は、映像制作を学ぶだけではなく、この学校に入ったからこそ、人間として、人との支え合いや、周囲への感謝ということを学ぶことが出来たのだと思います。

●當眞 宣行（映画学科卒）

卒業に際して、私の学生生活の四年間を振り返ってみると、この大学に相応しい人間であったと、自信を持って言えるかどうか、少し考えてみました。昔から学校にはアレルギーというかコンプレックスというか、とにかくそういった感情があり、トラウマのようなもので学校と名のつく場所に対して違和感を感じていました。しかし、この大学は、好きで選んだ映画学科ですから、自分の好きなものについてとことん学ぼう！と決意して入学しました。いざ入学してみると、やはりというか持病のようにそれが出てしまい次第に学業に向き合うことができなくなり、その穴を埋めるかのようにサークルや文化部連盟といった団体にばかり通うようになってしまっていました。そしてついに、サークルにおいては部長を務めるまでになりました。そういった充実した活動と、仲間が増えて行く中で、もう一



度、映画・映像と向き合おうとしました。勉強にはあまり熱心でない学生でしたが、先生方は課題や副論文などに取り組もうとした時、そんな不良学生であってもなんとか掬い上げるかのように熱意をもって指導してくださいました。そのおかげもあってなんとか今、卒業しみなさんの仲間入りをする次第であります。

卒業後は映像制作の業界に身を投じます。先生方から頂いた方法や考え方を活かして、もう一度映像に向き合ってみたいと考えています。

●伊藤 里華（美術学科卒）

私は二年次まで油絵コースに在学し、三年次に版画コースを選択しました。版画の授業では、画材の原料、紙の作られ方などを学び、同時に常に自分の使用する画材について考えることを学びました。そして技法は勿論、版画のことだけではなく、人としてのあり方や生き方についての話を先生はよく私達に話をしてくださったことを覚えています。私は三年次の冬に大学院で美術史を学ぶと決めました。そして研究と論文の執筆を始めました。版画の制作も研究もどちらも進めば進む程楽しくなり、両立することは難しかったです。しかし勉強して得た知識を制作に生かすこともでき、毎日充実した日々を過ごせました。そして無事に大学院生として日芸に残ることができました。将来は制作の経験と在学中に学んだイタリア語とフランス語の経験を生かし、多方面からの視点で研究ができる芸員になることが夢です。なので、私の夢への挑戦はまだ始まったばかりです。学部で過ごした四年間は迷いながらも、最後には学んだことすべてが自分の経験となり、夢へと繋がるものでありました。



●干場 月花（美術学科卒）

自分にとって成長するきっかけは、常に絵を描くことでした。大学に入学した頃、一番最初の課題で自画像を描いた時、感動して涙が出そうなくらい絵を描くことが楽しくて、この大学に入ってよかったと思ったことを今でも覚えています。中学や高校まで夢中で頑張れることがなかった自分にとって、入学してからの一年は制作が楽しくて無我夢中でキャンパスに向かっていました。また、いままで本を読むのが苦手で拒んできましたが、美術の関連書を読むようになり、様々な方向から自分の表現方法を模索するためにアプローチしました。絵を描くことで、アンテナを張ることができ、自分の考え方も制作活動と同時に鍛えることができるようになりました。就職活動の時期には、就活と制作の両立に励み、就職活動で新たな自分を知ることが制作にも活かせるように思います。この大学で出会った絵を描くということで、様々な人と出会い、今まで自分にはなかった価値観や考え方を知ることができました。また、こんなに大切なものを見つけられた大学時代を大切な思い出として、これからも制作を続けたいと思います。最後になりましたが、支えてくださった先生方、友人、職員の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。皆様のおかげで、大きく成長できる4年間となりました。



●観田 愛里奈（音楽学科卒）

「日芸を卒業することを誇りに思いたい」そう願いながら入学しました。趣味で始めたピアノを本格的に学び、いつでもピアノが弾ける空間が幸せでした。2年生で初めて演奏



会の舞台に立ち、私は嬉しさ反面、不安と憂鬱さが芽生えました。演奏会に出るためにまた結果を残さないとけない、弾かなければいけない。という気持ちが勝り、ピアノを弾く意味を見いだせなくなりました。私はピアノが好きなのか。暗中模索の3年生、救ってくれたのは音楽でした。日芸祭に参加したり友人が企画した演奏会に出たり、結果にとらわれない音楽を純粋に楽しみました。すると沸々と音楽を楽しみたい、弾きたいという気持ちが蘇ったのです。ピアノと真剣に向き合いながらも半分が辛い時期になった大学生活。でも、音楽に囲まれた環境で投げ出さずに続けてこられた4年間は誰が何と言おうと私はピアノが好きだ！という明確な証になったと思っています。春から音楽に携わる仕事に就きます。日芸で経験したことすべては今に繋がり、これからの人生の礎として輝き続けるでしょう。

●岡崎 萌真（音楽学科卒）

私は、高校は音楽科に通っていました。ですが、高校2年生のとき「音楽だけの世界に身に置きたくない」と思っていました。そこでたまたま日芸の存在を知り、受験を決めました。周りに色んな専門をもつ友人がたくさんいたこと、また、一緒に音楽をしてくれる友人がいたことで、今までで1番音楽が好きになり、音楽が楽しくてしょうがないと思うようになりました。それまではピアノの技術を向上するには、歌の技術を向上するにはどうしたらいいかばかりを考えてしまい、辛くなることもあったので、日芸に入って本当に良かったなあと常に思っています。3年からは教員採用試験の勉強を開始しました。本当に大変な1年半でもありました。そんな時も日芸で出会った友人たちと同じ目標に向かい、一緒に勉強したことでふんば



ることもできました。その成果もあり、4月からは教員になります。自分がまだまだ子どもで、教員としてしっかりやっていける自信があるかと言われたら、正直不安なところもあります。ですが、4年間やってきたことを信じ、子どもたちに音楽の楽しさを教え続けていきます。

●池田 拓矢（文芸学科卒）

本を読むのが嫌いで
す。活字を目で追って
いくのなんて、大変。
そんな私がこの学校
に入ったのは「詩が
書きたいから」それだ
けの理由でした。



この学校にはいろんな所にいろんな人がいます。学科のラウンジや教室棟、授業後の教卓周りに食堂横。時には所沢の居酒屋に江古田の喫茶店だったり。彼らは皆、何かに打ち込んでいたり、悩みを打ち明けたり、一瞬一瞬を楽しんだりしていました。

文芸なんて家で一人でパソコンに向かえば原稿は完成します。それでも学校へ行きいろんな人から刺激を受けて、自分にはこれがあるんだと詩に向き合える。それでもまだやり残したことが次々に思い浮かんでくる。そんな4年間を私は過ごしました。

「書を捨てよ、町へ出よう」と寺山修司は言いました。私にとってこの学校は、好きなもの、目指すものを持った若者達が集まったひとつの町でした。そしてそこでの出会いは私にとって確かな財産となっていて、私の筆を支えてくれています。

●松本 麻実（文芸学科卒）

恥ずかしながら、私は他の同級生と比べて、文章を書くことが得意だったり、たくさん本を読んできたわけではありませんでした。



私は大学に入るまで、文芸とは離れた生活を送ってきたと思います。幼い頃から劇団に入り、演劇やダンスのレッスン、公演に多くの時間を費やしてきました。進路を決める際、本を読むことも好きだったので、将来はそれに携われる仕事ができたらいいなと思い、文芸学科に入りました。しかし入学当初は友達に「舞台に立つことが好きなのに、なんで文芸に入ったの？」とよく聞かれました。文章を書くことが向いてないなと悩むことも多々ありました。

私は日芸でさまざまなことを経験し、たくさんの人に出会いました。素敵な先生方、友達と話をすることで、決して物書きになるためだけに文芸学科で学ぶわけではないということ、そして好きなことにもっと素直になっていいのだということを実感しました。私を支えてくださった全ての方に感謝しています。4年間、日芸で過ごすことができて幸せでした。入学当初思い描いていた夢とは変わってしまったこともあるけれど、これから精一杯歩んでいきたいと思います。

●原田 ひかり（演劇学科卒）

「日芸生」という言葉には何故か独特の魅力を感じます。どこの現場へ行っても必ず一人は巡り会う「日芸生」。好きな事を夢中で追求してき



た人達だからこそ、時間を超えて巡り会っても意気投合できる、そんなところがこの大学の魅力の一つだと思います。私は高校を卒業してから大学に進学する気はありませんでした。でもひょんな事で受験をし、演劇学科に入学し、人生を変える友人達、先生方と出会い、ダンス・演劇・ミュージカルなど何百と本番を重ね、ミス日芸に選んで頂き、さらなる沢山のありがたい機会に恵まれ、こんなに充実した大学生活になるとは4年前の人見知りな私からは考えられま

せんでした。全てはご縁の力なり。一つ一つの出会いを大切に紡いでいくと不思議と縁は繋がっていくものです。日芸という名前を背負って大先輩方の仲間入りができたこと、とても嬉しく思います。これから日芸生であることに自信と誇りをもって、そして無我夢中に純粋に好きなことを追いかけたこの時間を信じてこれからも走り続けたいと思います。先輩方、これからどうぞよろしくお願い致します。きっと何処かでお会いできる日が来ることを信じて。

●山岸 萌（演劇学科卒）

日藝人生での一番の財産は何かと考えると「ヒトとの出会い」と言えるだろう。日藝生を初めて感じたのは入学式、演劇学科の凄まじいエネルギーを目の当たりにした時だ。こんなにもパワフルなヒトがいるものかと度肝を抜かれた。すぐ後に、このヒトビトの大真面目な姿を目撃してしまった時にはギャップに衝撃を受けながら、表現者としての妥協を許さないその心意気に興奮したのを憶えている。その「ヒト」になって過ごした4年間はまさに苦楽の繰り返しだった。だが「演劇は苦しいことが楽しいから面白い。」心底そう思えたのは、それぞれの表現法をもつ何十人ものヒトビトが芸術を創り上げることに全力で一心したからだろう。少々気恥ずかしいが、最高の芸術創造を目指す仲間と出会えた演劇学科は人生の宝だ、と断言できる。そして、これから飛び込む新しい世界を魅せてくれたのもまた日芸で出会った他学科のヒトビトだ。8つのアートの言葉以上に日藝には多くのアートが渦巻いている。そのほんの一部だが4年間で出会ったアートたちはその全てが今の私を、私が創り上げるモノに力をくれた。これからはそのエネルギーを発散すべく、表現者としての人生を邁進し



ていこうと思う。
ありがとうございました。

●齋藤 公介(放送学科卒)

日芸が第一志望ではなく、在学中部活動にいそしんでいた私は、日芸生らしくない日芸生かもしれません。そんな私と仲良くしてくれた、先輩方、友人達には感謝の気持ちでいっぱいです。振り返ってみて、人に恵まれた4年間だったと感じます。同じ志を持った仲間と取り組んだテレビ制作の実習は、ほどよい緊張感がありました。特に企画会議の日は普段の友人とは違う表情が見られて、企画への情熱がびしびし伝わってきました。授業終わり、企画やプレゼンの反省を友人としたこともあり、高モチベーションで取り組む仲間がいる環境が、いい刺激になりました。4年間在籍していたバレーボール部でもよき友人に恵まれました。学科や年齢、時に学校を越えた出会いがたくさんありました。放送学科の先輩や友人たちに運動部の必要性や日芸に入学した理由を問われ、とても悩んでいた時期もありました。やり続けてよかったと今は強く思います。競争心や研ぎすまされた集中力は、バレーボールを通してより一層強くなり、自分を必要としている場所があることが、心の大きなゆとりになりました。多種多様な価値観、思想、性格、芸術性に触れ合うことができた大学4年間は一生の誇りであり財産です。



●中村 瑠里(放送学科卒)

高校1年生の夏、ただ机に向かって勉強することに退屈していた私に、母が日芸を紹介してくれました。それ以前から、テレビ番組の収録に行



くことが好きで、初めて日芸のテレビスタジオに行った時の興奮は忘れられません。きっとどこかの大学へ入学したとしても、それぞれの良さや楽しみ方があったと思います。でも、私はこの大学に入学して出会えた友人に心から誇りを持っています。たとえ今は夢が変わっていても、大学受験を前に1度は映像の世界を目指した人が集まるこの場所は、いつでも私を前向きな気持ちにさせてくれました。その一方で、目標を持っている人や夢を持っている人が周りに多かったからこそ、具体的に何もない自分のことが嫌になったり、焦りを感じることもありました。けれど、目標に向かって努力する姿や、楽しそうに夢を語る友人の姿が刺激的で、本当にやりたいことを考えるきっかけを私にくれました。これから社会人になって、様々な経験をすると思います。その全てを、この友人たちとお酒を片手に語り合いたい。ここは、そう思える友人と出会える場所だと思います。

●横山 翔一(デザイン学科卒)

ロボットやスマートウォッチなど、未来を感じさせる革新的なモノを生み出す行為を「デザイン」と知ったのは、私が高校2年生の時だった。そこから6年。日芸でデザインを4年間学んだ私のデザイン観は大きく変わった。「デザインする」とは、人と人、人とモノ、人と環境、全ての流れを読み取り、乱れた流れを正したり、流れの無い場所に新たな流れを作り未来を築いたり、まるで橋を架けるような行為であることを学んだ。橋を架けるためには多くの仲間が必要のように、デザインも仲間なくしてではしない。それらを教えてくれたのは日芸で出会った先生方、先輩、同期、後輩であり、共にデザインをして新しいモノを生み出してき



た経験は決して忘れることのない私の一生の宝だ。枠から飛び出し、多くの人と繋がる力を与えてくれた日芸には、感謝してもしきれない。4月から社会人となり、かつて懂れていたロボットやウェアラブルデバイスの世界でデザイナーとして挑戦していくことになるが、どんな時も培った日芸力を忘れず、次は私が「デザインする」ことで未来の子供たちに夢を与え、感動させてみせる。

●土屋 真子(デザイン学科卒)

日芸で過ごした4年間で私が学んだことは「好き」という気持ちを大切にすることです。デザインを学んで、作る側の人間になりたいと思ったきっかけも、もともとは絵を描くことが好きという単純なものでした。単純ではあるけれど、その「好き」を常に持ってモノを作ることは何にも勝るエネルギーであることに、大学で4年間いろいろな方と会うことで気がつくことができました。そして、自分の好きなものを大切にしていくなめには、常に目標を持つことが自分を成長させる鍵になることも同時に学びました。大学生になるということは大学に行って講義を受けたり作品を作ることだけではないと思います。私は大学生であることを武器に、いろいろな人と出会ったり外へ出て新しい刺激を受けることが本当の肥やしになったと感じています。自分一人だけでは会うことができなかった方々と会うきっかけを与えてくれて、人間としての自分を成長させてくれた日芸に心から感謝します。



日藝の卒博開催

日本大学芸術学部では、8つの学科の卒業成果物をご覧頂く機会として、『日藝の卒博』と称し、写真・映画・美術・音楽・文芸・演劇・放送・デザインと、様々な卒業成果物を博覧会として総合的にご覧いただいております。今年は発表機会を昨年末のシーズン1(公演中心)、3月のシーズン2(展示・上映中心)、春のシーズン3(映画上映)としました。日藝のキャッチフレーズ「8つのアート、1つのハート」を感じてもらおうという企画です。

○開催期間 平成28年3月12日(土)から20日(日)まで

○開催場所 日本大学芸術学部江古田校舎



秋田江古田会総会

10月17日(土) 於：カフェ・ブルージュ

秋田江古田会の第9回総会が平成27年10月17日(土)午後4時から秋田市の「カフェ・ブルージュ」で開催されました。藤澤支部長の挨拶、ご来賓の芸術学部長野田慶人様、校友会長の綾部東洋子様紹介に続いて議案を審議いたしました。

平成26年度の活動報告、決算報告に続き、平成27年度の事業については、会の発展向上などに努める交流会などを随時開き具体的な事案を検討することや会員の行なう各事業への協力、又、年1回の会報の発行の継続、さらに来年度は秋田江古田会設立10周年ということで、何か行事を

開催する方向で進めようということになりました。又1名欠員の副支部長のポストには全員一致で幹事の淡路徹氏の就任となりました。

総会後の懇親会では日本大学の校歌斉唱に始まり、ご来賓の野田学部長から大学の現状や今後の展望、さらに今回の「きりたんぽ」や「いぶりがっこ」などの秋田の郷土料理のすばらしさ、又、綾部校友会長からは支部同士の交流が盛んになってきていること、鹿児島の日芸出身者、陶芸家荒木さんが秋田市で陶芸展を開催するのでご協力をお願いしますとの挨拶のあと和気あいあいと学生時代の

頃に戻り、話しに花が咲きました。

事務局長 仙北屋 昭弘



岩手江古田会総会

11月7日(土) 於：新茶屋

第11回岩手江古田会の総会、懇親会を、11月7日(土)奥州市江刺区の「新茶屋」で来賓に校友会綾部会長、学部木村次長、宮城江古田会の桑折会長をお迎え開催しました。

総会は、佐藤事務局長の進行で分会長の挨拶のあと平成26年度の活動と決算及び今年度の活動予算を全会一致で承認しました。

岩手江古田会は総会と会員の懇親会を活動の柱として、毎回趣向を凝らし行っています。11回目の今年は会場を県南の奥州市にある日本料理の店「新茶屋」に集まりました。ここは平民宰相・原敬ゆかりのある店で歴史的風情のある建物と繊細な美が

織りなす日本庭園が残っており、会員に大変好評でした。

懇親会は、古くから伝えてきた伝統の日本料理を肴に、江古田の絆が賑やかでアットホームな雰囲気となり、出身学科や世代を超えて結ばれるご縁を目の当たりにすると、校友会の意義と大切さを素晴らしいものに感じます。

これからも江古田会の継続と発展のため、会員一丸となって邁進してまいります。

今回は、11月に逝去された副会長の鈴木玲子さんに出席者全員で哀悼を込めてお別れしました。邦楽界で多大な活躍をされ当会の設立や副会

長としてご尽力されました。岩手江古田会一同、謹んでご冥福をお祈りいたします。

事務局 藤原 亮平



台湾江古田会総会

11月21日(土) 於：一兵一卒

日本大学芸術学部台湾江古田校友会27年度総会が平成27年11月21日(土)、台湾台北の鍋料理専門店「一兵

一卒」において開催されました。日本から来賓として野田慶人学部長と原直久校友会副会長が出席され、また

OBの阿部靖夫氏も参加して頂きました。参加会員数は15名と来賓3名でした。

はじめに台湾江古田校友会黄会長の挨拶、また野田学部長と原直久副会長の紹介、挨拶に続いて、最後は会員が一人ずつ近況報告をし、前会長



陳榮明氏の広告業引退報告や林舜龍氏は世界各地に出展し、最近の創作活動についての報告を聞きながら、楽しいひと時を過ごしました。



台湾も少子高齢化の問題があり、今後、台湾江古田会も母校の進学情報と活動内容を台湾の学生に提供するように力を入れます。



岡山江古田会総会

1月22日(金) 於: Ryoutei

岡山江古田会の平成27年の総会及び新年会を平成28年1月22日Ryoutei(りょうてい)奉還町本店にて、参加者16名で開催しました。

今回は、日芸のAO入試をパスした現役高校生と初参加の方が1名おられました。

総会では、1月9日の支部総会での各支部の近況などの報告と、6月に開催予定の芸術学部 岡山江古田会

作品展のスケジュールの説明があり、引き続き懇親会が行われ、各自の近況報告や日芸時代のなつかしい話など2時間半楽しい時を過ごすことができました。

最後に、第4回作品展に向け、1本締めで終了しました。

藤井 一也



江古田会各支部連絡表

各江古田支部に
ご在住の校友の皆さん

各支部では参加者を募っておりますので是非皆様のご連絡をお待ちしております。

今年度は、愛知江古田会も設立されます。

4月14日(木)九州地方を襲った平成28年熊本地震で被災された校友の皆様、学生会員の皆様には、心よりお見舞申し上げます。

支部名	名 前	卒業学科年度	連絡先
北海道江古田会	氏家 曹一	放送 52 年度卒	090-3468-6657
青森江古田会	高木 保	演劇 32 年度卒	0177-77-7708
秋田江古田会	仙北屋 昭弘	音楽 54 年度卒	090-2954-2283
岩手江古田会	佐藤 剛	演劇 53 年度卒	0197-25-5497
宮城江古田会	桑折 洋一	放送 55 年度卒	090-3752-8833
山形江古田会	横倉 晋也	美術 52 年度卒	023-631-8040
新潟江古田会	増井 伸一	写真 48 年度卒	025-233-3910
福島江古田会	島崎 恒夫	映画 31 年度卒	024-935-5410
長野江古田会	三浦 博之	放送 49 年度卒	0263-46-2583
石川江古田会	干場 文夫	音楽 50 年度卒	090-6273-4982
岡山江古田会	藤井 一也	文芸 53 年度卒	090-3177-0334
福岡江古田会	飛嶋 慶一	写真 44 年度卒	090-6953-5543
佐賀江古田会	音成 日佐男	放送 45 年度卒	0952-24-8181
熊本江古田会	奥村 隆志	写真 43 年度卒	090-7169-2909
宮崎江古田会	米倉 史朗	写真 52 年度卒	090-1080-8082
鹿児島江古田会	堀之内 隆	放送 49 年度卒	090-3739-7374

海外江古田会として台湾江古田会、韓国江古田会、中国江古田会があります。

学部ニュース

去る3月25日に平成27年度卒業式が挙行されました。日本大学学長賞・優等賞・優秀賞、芸術学部学長賞、芸術学部奨励賞など卒業生、大学院修了生に対する各賞の発表及び表彰がありました。

●日本大学学長賞

○映画学科 桐畑 葉

●日本大学優等賞

○写真学科 鳥羽優作 小松拓也

小堀 弘 飯塚麻衣

○映画学科 齊藤大輔 雫石 海

丹羽真結子

○美術学科 野口紗綾 櫻井ひとみ

関根悠姫 木村祥乃

○音楽学科 阿左美まい 加藤里奈

高橋柚莉香 塩澤文英

○文芸学科 齋藤真由香 駒形晴香

殿木 舞 伊藤光甫

○演劇学科 原田ひかり 太田成美
藤井美優 三井安奈
○放送学科 金田ひかり 木本芽以
椿祐梨也 萩元彩寿娒
○デザイン学科 土屋真子 古山さくら子
有馬莉奈子 小島あかり

●芸術学部学長賞(学業部門)

○写真学科 八木元春 小松拓也

岩井里紗 松本安奈

田中雅貴

○映画学科 水沼一騎 中井健勇

若元綺香 渡邊健悟

土屋貴聖

○美術学科 干場月花 野口紗綾

横溝雄太 伊藤里華

田島諒一

○音楽学科 阿左美まい 堀内賢人

井田千晶 金 重源

小林史佳

○文芸学科 吉田紗耶香 両角千尋

法師人大樹 佐藤園子
役山 遥

○演劇学科 加藤麻由美 太田成美

大塚郁実 柏亜由実

小岩井杏奈

○放送学科 朴 智秀 新堀紗知子

木本芽以 椿祐梨也

宇佐美華

○デザイン学科 渡部太一 林日菜子

有馬莉奈子 早坂向日葵

櫻庭 遼

●芸術学部奨励賞

○写真学科 母袋つばさ

○映画学科 大沢 愛

○美術学科 関根悠姫

○音楽学科 藤田里帆

○文芸学科 樋口仁美

○演劇学科 藤井美優

○放送学科 伊藤夏美

○デザイン学科 于 上杰

学科ニュース

写真ブロック



●平成29年度「総合大学の理想像をめざす日本大学」のメイン写真のコンテストで、2年生の酒井陽一郎の「新しい世界へ」が最優秀賞となり、誌面を飾ることとなりました。優秀賞には岩下響「燃ゆる」(1年)、迫恭平「カラフルパズルズ」(2年)、学部学長賞には近藤香織里「円(わ)」(1年)が選出されました。

●平成27年度芸術祭展示作品の中から写真学科奨励賞が河西宏樹(1年)「静寂の空間」「眼光炯炯」、金成

津(2年)「Statuette」砂土居孝文(4年)「Glory of the Glow」に授与されました。また写真学科卒業生の会・新写真派協会から新写真派協会賞が星野佑(4年)「Japanese Season」に授与されました。

●「写真学科卒業生による広告表現時代のポスター展」を芸術資料館(10月27日～12月4日)で行いました。昭和16年度から昭和46年度卒業の23名のポスターを75点展示しました。

●10月5日、今年度より日本大学客員教授となられた宮嶋茂樹先生(昭和58年度卒)により「写真ジャーナリズムとは何か? - 仕事と使命感の間で -」と題する特別講義が10月5日は江古田校舎で、翌6日には所沢校舎で行われました。同じタイトルでしたが、3、4年生は撮影行為を中心

に、1、2年生には撮影技術を中心とした異なる講義となりました。多くの質問も出て、盛り上がり、最後は記念撮影をして終了となりました。

●10月20日に所沢校舎で安珠氏により「写真の力☆知る見る読む」と題する特別講義が行われました。パリのモデル時代から、写真家に転向していく流れ、作品に対する思いなどを写真を見せて頂きながら伺いました。

●12月11日に江古田校舎で石川直樹氏により「編集企画について」のテーマで、写真を見せていただきながら特別講義が行われました。

●2年の酒井陽一郎が、EWAA(EAST-WEST ART AWARD)の第6回イースト・ウエスト・アート

大賞ロンドンの写真部門カテゴリーベスト(写真部門1位)を受賞しました。世界26カ国の約2,400作品の中から選出され、イギリスに招待されました。受賞者の最年少記録となりました。

●APAアワード2016の写真作品部門、学生賞を下山真輝(2年)が受賞しました。

●第63回ニコールフォトコンテスト第4部U-31部門で、井上太志(1年)が大賞を受賞しました。

●卒業制作の中から金丸重嶺賞が星野佑「Another Sky」、川村将貴「自分のために 人のために」、小財美香子「南へゆけば」に決まりました。その他の賞については「学部ニュース」のページをご覧ください。

●池袋WACCA4階ギャラリーで、展示希望の学生の作品から選抜した作品により「NICHIGEI PHOTO in WACCA写真展」を下記のとおり3回行いました。Vol.1 小野瑞希×手塚菜摘(いずれも4年)「OPERATION」(11月14日～11月23日)。Vol.2 鵜澤あかね(2年)「わたしすすむ」(1月22日～1月31日)。Vol.3 森紗英子×勝見里奈(いずれも2年)「bibibi!」(3月21日～3月31日)。

●夏に北海道東川町で開催した東京工芸大学との合同展に引き続き、東京のキャノンギャラリー品川でも新たに「日本大学芸術学部写真学科+東京工芸大学芸術学部写真学科」展を行いました。Vol.1 日本大学芸術学部写真学科写真展(2月5日～2月16日)、Vol.2 東京工芸大学芸術学部写真学科写真展(2月17日～2月26日)、Vol.3 日本大学・東京工芸大学合同写真展(2月27日～3月8日)という日程でした。Vol.1では、提出されたポートフォリオから選出した山田凌(1年)、掛祥葉子(2年)、金成津(2年)、渡邊浩史(2年)、安藤すみれ(2年)、本永創太(3年)、坂井花(3年)、古賀一樹(3年)、山田貴史(3年)、八木元春(4

年)の10名の作品を展示しました。Vol.2では、展示希望者の卒業制作の中から選抜した作品を再度プリントを制作し、展示しました。出展者は、猪原樹、大野洋介、黒石あみ、小林安祐美、小松拓也、手塚菜摘、濱田昂之、松本安奈の8名でした。

●本年度初となる「日本大学芸術学部写真学科 学生選抜作品展」を日本大学芸術学部江古田校舎芸術資料館で2月15日から2月27日に開催しました。この写真展は、対象を写真学科の1年生から3年生までとし、展示を希望する学生のポートフォリオから選抜した優秀作品を展示したものです。1年生からはキム イルギョン「déjà vu」、中古樹「雲立つ里」、松井友輝「Beautiful Flowers」、丸夏実「Losing」、2年生からは片岡誠「草木も眠る、丑三つ時に眠らないなにか…」、金成津「ALIVE」、橋本陽「都人」、真壁敦史「日本の風景」、渡邊峻生「Symmetric buildings」、3年生からは石田健「夜」、清水奎司「職人」、中川一輝「個性の死」、本永創太「夢の跡」の13名が選ばれました。またこの中から更に選抜された学生が、作品を補充し5月26日～6月1日にポートレートギャラリーで写真展を行います。ご覧いただければ幸いです。

●3年生の清水奎司の作品「未来への不安」がSony World Photography Awardに写真学科の代表作品として参加しました。

●「2016卒展」が3月12日～3月20日に日本大学芸術学部江古田校舎棟1～3階各展示スペース及び芸術資料館で行われました。展示作品の中から遠藤志帆「Multiverse」に写真学科主任賞、および手塚菜摘「Solo」、中原小百合「大丈夫、すぐ降りますんで。～ダンボール山手線一周～」に写真学科奨励賞を授与しました。また岩井里紗「花の肖像」には新写真派協会賞が授与されました。

●練馬区役所健康福祉事業本部の依頼で、3回目となる「女性の健康週間」

写真展を行いました。今年のタイトルは「ひと×健康×いろいろ×色」でした。下記のとおりに選抜された3年生8名が担当の色をイメージする作品を制作しました。鎌田カリラ茉莉子「dreaming」(青)、金井めい子「幻想の花束」(紫)、小田倉璃葉「透」(白)、清水奎司「飲み込まれる個性」(赤)、中莖かうり「-zelena-」(緑)、中里麻依子「明日へ」(水色)、本永創太「無重力れもん～お誕生～」(黄)、吉岡賢「Orange Sky」(橙)です。作品は3月1日～3月11日に練馬区役所本庁舎1階アトリウムで展示され、ホームページでも紹介されました。

●今年で5回目となる「日本大学芸術学部写真学科卒業制作選抜展」が2月27日～2月29日までニコンサロンbis新宿で開催されました。この展覧会は卒業制作の実物を校外で唯一展示するものです。展示希望者を公募し、審査をへて選抜し開催となりました。出品者は岩井里紗「花の肖像」、遠藤志帆「Multiverse」、大石健登「Lighthouse」、小野瑞希「あ・わ・い」、小堀弘「消滅」、八木元春「Time」、叶麗「絲綢之路・《一萬公里の西遊記》」、吉岡翔「覆われた大地」の8名です。

●4月2日をもって松田義弘先生(昭43年度卒)が写真学科を定年されました。新しく小林光先生(昭60年度卒、「写真表現Ⅰ(広告写真)」担当)、谷昭佳先生「写真表現Ⅷ(文化財写真)」をお迎えしました。

●5月10日から6月17日まで日本大学芸術学部江古田校舎芸術資料館でオリジナルプリント展「黒白ファインプリントの名作2」を開催します。詳細は日本大学芸術学部ホームページをご覧ください。

●直近情報等は写真学科公式Facebook/Twitterで発信しておりますのでご活用ください。

映画ブロック



●平成27年度映画学科各賞が、次の卒業生の論文・計画・制作に授与されました。

☆第43回渡辺俊平記念賞

(映像表現・理論) 桐畑 葉

☆第18回答見有弘賞

(映像表現・理論) 目黒真奈美

☆第9回大竹徹賞

(映像表現・理論) 多田圭佑

☆第10回八木信忠賞

(録音) 渡邊 聡

☆第40回映画学科奨励賞

(映像表現・理論) 柴田辰吉、松實 航、山澤瞳子、(監督) 渡部真未、(撮影) 松村綾香、(録音) 藤田 啓、(演技) 尾崎千瑛

☆第25回映画学科選奨

(映像表現・理論) 河内邦充、佐野 大、齊藤大輔、(監督) 丹羽真結子、(撮影) 渡邊康太、(録音) 中根 渉、(演技) 長江榛野

☆第23回映画学科特別賞(報映産業提供)

(映像表現・理論) 磯野ソニア夏子、久保沙織、由利碧海、(監督) 伊尻悠希、(撮影) 青木 峻、(録音) 藤原礼実、(演技) 池松亜美

☆第13回東芝ライテック・アートライティング賞

(撮影) 朴 基俊〔照明にたいして〕

☆第15回映画学科コダック賞

(監督) 林 晃平、大久保文貴、(撮影) 森田結貴、入江 望、(録音) 石橋侑也、安部結莉香、(演技) 森 博紀、大倉翔太

☆第1回三善賞〔(株)三善提供〕

(演技) 梅澤寛容

●平成28年度より、次の先生が新しく映画学科の講座を担当します。大口孝

之講師(映像特別講座Ⅱ)、川崎賢子講師(映画と諸芸術)、富田美香講師(昭和63年度映画学科卒業、映像特別講座Ⅰ)、鈴木智美講師(日舞Ⅱ)、津堅信之講師(アニメーションⅡ)、仁井田千絵講師(映画理論基礎)、土井悦子講師(映画ビジネスⅡ)、上田学講師(映画特講Ⅴ)

●平成27年度をもちまして、次の先生方が映画学科を退職されます。映画学科発展にご尽力いただきありがとうございます。稲村武志講師、広沢文則講師(広沢講師は、引き続き大学院映画専攻の映画分野の講座を担当します)、岩本憲児講師(岩本講師は大学院も退職となります)。

●平成27年度をもちまして、次の先生方が大学院映像専攻映画分野を退職されます。映画学科ならびに大学院の発展に多大なる貢献とご尽力いただいた、八木信忠講師、波多野哲朗講師、内藤誠講師です。長い間ありがとうございました。

美術ブロック



★公募コンクールFACEにおいてグランプリを受賞した遠藤美香さんの展覧会が開催されました。遠藤美香さん(H18年度版画専攻卒)《水仙》木版画で、グランプリを受賞されました。

FACE展 2016損保 ジャパン日本興亜美術賞展 Sompo Japan Nipponkoa Art Award Exhibiton

会期:2月20日～3月27日 会場:東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館

★第39回全国大学版画展において収蔵賞を受賞

関貴子さん(院2年)《遙かな記憶からXⅢ》リトグラフで、町田市立国際版画美術館収蔵賞を受賞されました。



★雪の運動会

大地の芸術祭の里(新潟県十日町松代)において、3月5日雪の運動会が開催されました。

鞍掛純一教授、彫刻学生有志が参加しました。

■土谷武展

会期:4月25日～5月14日

会場:江古田校舎A&Dギャラリー
土谷武氏の寄贈作品を中心に展覧会を行います。

■6人のフォルム

会期:5月7日～15日

会場:兜屋画廊

福島唯史教授が出品

■Nerhol個展

会期:5月18日～8月31日

会場:金沢21世紀美術館

飯田竜太専任講師のアートユニット展

■太陽展

会期:5月18日～31日

会場:日動画廊

福島唯史教授、櫻井孝美客員教授が出品

■Nの会

会期:5月30日～6月9日

会場:セイコウドウ

坪井麻衣子助教、大山智子助手、渡辺大介(H11卒業)、張麗寧(H21修了)、設楽俊(H21修了)が出品

■文京美術会展

会期:6月10日～16日

会場:文京シビックギャラリー

大庭英治教授が出品

■坪井麻衣子助教個展

会期:6月20日～7月2日

会場:江古田校舎A&Dギャラリー

■設楽俊(H21修了)個展
会期:6月29日～7月12日
会場:日動画廊
■6月の会
会期:6月下旬

音楽ブロック



●平成27年度 卒業論文要旨発表会
平成28年3月17日(木)江古田校舎・東棟6階音楽小ホールに於いて、卒業論文が優秀であった学生による卒業論文要旨発表会が開催されました。発表者は次の通りでした。

＜理論コース＞

堀内賢人、酒井侑那

＜音楽教育コース＞

藤田里帆、宮地耀子

＜情報音楽コース＞

金重源、岡本美香、石毛大貴、眞保ありあ

●平成27年度 卒業演奏会

平成28年3月17日(木)練馬文化センター・小ホールに於いて、卒業演奏及び卒業作品で優秀であった学生の出演する卒業演奏会が開催されました。出演者は次の通りでした。

＜作曲コース＞

小泉輝明(作品発表)

＜声楽コース＞

小林史佳(ソプラノ)、福島みなみ(ソ

会場:ギャラリーゴトウ
福島唯史教授が出品
■笹井祐子教授個展
会期:9月13日～25日
会場:ATELIER・KART SPACE

プラノ)、砂田茅佐(ソプラノ)、伊藤千紘(ソプラノ)、三上百音(ソプラノ)

＜ピアノコース＞

阿左美まい、柴田崇孝、小形由美子、伊藤陽香、坂井怜奈

＜弦管打楽コース＞

井田千晶(ファゴット)、牧野昌平(打楽器)、高橋柚莉香(フルート)、岩澤葵(クラリネット)、浜谷安里(マリンバ)、岡元勇貴(クラリネット)

●日本ピアノ調律師協会主催 第17回新人演奏会 東京文化会館・小ホール
平成28年4月25日(月) 17:00開演
ピアノ独奏 柴田崇孝

●第86回 読売新聞主催新人演奏会 東京文化会館・大ホール

平成28年5月4日(水・祝)・5日(木・祝)

ピアノ独奏 阿左美まい

ファゴット独奏 井田千晶 ピアノ

伴奏 柴田崇孝

メゾソプラノ独唱 小林史佳 ピアノ

伴奏 伊藤陽香

作品発表 小泉輝明 マリンバ独奏

牧野昌平

●ヤマハ管楽器 新人演奏会

平成28年6月17日(金)第34回クラリ

ネット部門 ヤマハホール

クラリネット独奏 岩澤葵

■版17展2016

会期:9月26日～10月7日

会場:INOAC銀座並木通りギャラリー
笹井祐子教授が出品

平成28年6月18(土)第20回木管部門
ヤマハホール

フルート独奏 杉浦夏美

平成28年6月19日(日)第32回金管楽器
部門 ヤマハホール

チューバ独奏 石田奎斗

●ムラマツ・フルートデビューリサイ
タル

平成28年7月2日(土) 東京オペラシ
ティ・リサイタルホール

フルート独奏 高橋柚莉香(小リサイ
タルの形で演奏します。)

●平成28年度 音楽学科夏期受験準
備講習会

平成28年7月26日(火)～29日(金)に
開催いたします。校友会員の皆様のお
知り合いを、ぜひご紹介ください。

●平成27年度で退職なさった先生は
次の通りです。

長い間、ありがとうございました。
林庸二先生・村上明美先生・大蔵康
義先生・岩波滋先生・久本成子先生・
古賀慎治先生

●今年度より次の先生が新たに講座
を担当しております。

渡辺ローザ先生・臼井隆子先生・本田
聖嗣先生・新田幹男先生・三浦章宏先
生・松村絵里菜先生・岩波孝昌先生

文芸ブロック



■大山海さんが漫画雑誌『アクセス』
にて連載中

文芸学科2年生の大山海さんの漫画
「東京市松物語」が『アクセス』にて連
載されています。『アクセス』は青林工
藝舎より発刊されている隔月刊漫画
雑誌で、『月刊漫画ガロ』の事実上の後
継誌と言われています。大山海さんは
「頭部」で、第17回アクセスマンガ新人

賞佳作を受賞、『アクセス vol.104』
2015年4月30日発刊にて選考結果発
表)現在は同誌にて「東京市松物語」を
連載中です。

■卒業生の中村美公さんが『マンガで
読み解く 宮沢賢治の童話事典』にて
デビュー

平成26年度卒業生の中村美公さん
が、『マンガで読み解く 宮沢賢治の
童話事典』(東京堂出版 2015年11月)
にてマンガ家デビューを果たしました。
文章を担当しているのは、文芸学
科の山下聖美教授です。

■田中里咲さんが、第27回舟橋聖一
顕彰青年文学賞最優秀賞受賞

大学院芸術学研究科文芸学専攻博士
前期課程2年生の田中里咲さんが、小
説「海と舟」で、第27回舟橋聖一顕彰青
年文学賞の最優秀賞を受賞しました。
■澤井万智さんが第九回宗祇白河紀
行連句賞入選

文芸学科3年生の澤井万智さんが第九
回宗祇白河紀行連句賞に入選しました。
入選作

発句 空に誰がくたく氷ぞ玉あられ
(課題句)

脇句 さいの目切りの甘い大根

第三 ジーパンの腿のあたりで手を
ふいて

演劇ブロック



- 毎年東京において上演された演劇公演を対象とする、紀伊國屋書店主催・第50回紀伊國屋演劇賞個人賞に、俳優の田中哲司さん(平成元年度・演技コース卒)が選ばれました。シス・カンパニー公演「RED」におけるマーク・ロスコ役の演技が評価されたものです。
- サロン・ブラン美術協会主催、2015年9月の日仏現代国際美術選抜

展において、向瀬杜子春さん(昭和48年度・演出コース卒)が佳作賞を受賞しました。2004年以来続けているインド・サントルでの写真撮影とその作品が評価されたものです。向瀬さんは本年4月の同協会国際公募展においても準会員優勝を受賞しました。

- 公益社団法人日本舞踊協会主催・平成28年各流派合同新春舞踊大会において、花柳克昂こと吉見昂史さん(平成20年度・日舞コース卒)が清元「流星」により、藤間真白こと勝田真以さん(平成22年度・日舞コース卒)が長唄「水仙丹前」により、それぞれ奨励賞を受賞しました。同大会は新人日本舞踊家の登竜門として高い評価を受

けており、著名舞踊家を多数輩出しています。

- 横浜ダンスコレクション2016コンペティションⅡにおいて、江上真子さん(平成25年度・洋舞コース卒)が奨励賞を受賞しました。同コレクションは若手振付家の発掘と育成、コンテンツポラリータンスの普及を目指して1996年にスタートしたダンス・フェスティバルです。

- 演劇学科では、本年も6月23日～25日の「3年生総合実習ⅡA」を皮切りに、年間にわたり実習成果の発表会を開催致します。公演名・日時・鑑賞お申込などは、学科公式サイト(学部HP参照)をご覧ください。

放送ブロック



- ACC学生CMコンクールで金賞受賞
2015年度ACC学生コンクールにおいて、放送学科3年の小野葉澄さんがラジオCM部門・金賞を受賞しました。このコンクールは全日本シーエム放送連盟(ACC)がCMの質的向上と育成を目的に実施しており、「既存の広告作品にとらわれない学生らしくオリジナリティ溢れるアイデア」を審査基準に実施されているものです。小野さんの作品は、1,713本の応募があった中からの受賞でした。
- 「好きなDJランキング」で一位獲得
月刊ラジオライフ編「ラジオ番組表」誌が行なった「第8回読者が選ぶ好き

なDJランキングFM部門」にて、黒江美咲さん(平成24年度卒)が998票を集め一位を獲得しました。998票というのは、全ジャンルの中でも最多得票数でした。

黒江さんは @FM (FM AICHI) で「muse beat(月～金曜11:30～13:00)」などの番組を担当しています。

- 放送学科CM専攻学生がPR動画を制作

きゅうり収穫量日本一を誇る宮崎県みやざきブランド推進本部が、今年一月に「きゅうりをもっと美味しく、楽しく」をテーマにfacebookページ「Cubic!」を立ち上げました。

そこで全国の大学生から集められた企画の中から選ばれた、放送学科の上村華乃子さん・増渕功輝さん・落合佑紀さん・渡邉依利奈さん・小早川晃穂さん・木崎歩美さんらが制作した「きゅうりムービー」が好評公開中です。

<https://www.facebook.com/cubic.miyazaki/>
今後も本学科生が制作した動画が続々と公開予定です。

また学生たちの撮影の様子はテレビ宮崎「UMKスーパーニュース」でも取り上げられ放送されました。

- 放送学科退任者のお知らせ

長きに渡ってテレビ制作や作品研究・卒業研究を担当されました堤(石渡)さくら先生が3月で退任されました。授業や実習、卒業制作・論文などお世話になったOB・OGの方も多いのではないのでしょうか。

また朗読ゼミを担当されていました懸川(菅原)牧子先生も3月で退任されました。専任教員の後、特任教授として朗読の指導にあたられました。長い間、ありがとうございました。

デザインブロック



- デザイン学科生の活躍

○「日本タイポグラフィ年鑑2016」で入選

日本タイポグラフィ協会が主催する日本タイポグラフィ年鑑2016の審査会がおこなわれ、学生部門で森田隼

矢くん(3年生)の作品、『TYPLATE』が見事入選をはたしました。2016年4月にパイインターナショナルから発行される日本タイポグラフィ年鑑に掲載されました。

- 「人権啓発ポスターコンクール」で

最優秀賞ほかを受賞

人権侵害のない快適な環境を守るため、学校法人日本大学が同法人設置の学校の学生・生徒を対象に人権啓発ポスターを募集しました。審査の結果、下記のデザイン学科生が入賞しました。

・最優秀賞：大野瑛里加(2年)

【大学生の部】

・優秀賞：喜多七海(2年生)

・優秀賞：梅沢寧々(3年生)

・特別賞：新井亮太(2年生)

○「東吉野村ニホンオオカミ手作り絵本コンクール」で入選

東吉野村(奈良県吉野郡東部)が主催する「東吉野村ニホンオオカミ手作り絵本コンクール」において、乃坂夏美(2年生)さんの作品『ナニオオカミ?』が入選しました。

○銀座のウィンドウディスプレイをデザイン

デザイン学科の学生が銀座和光のウ

ィンドウディスプレイをデザインし、今年も銀座の街を彩りました。

・バレンタイン・ディスプレイ

銀座和光ANNEX 1階ウィンドウ

担当学生：島村真里那(3年生)

期間：1月21日から2月14日まで

・プライダル・ディスプレイ

銀座和光本館 1階東ウィンドウ

担当学生：河西美里・高橋滯央・

平林菜々美(3年生)

期間：1月21日から2月3日まで

■デザイン学科の卒業生と学生との

交流会を開催

恒例となっている同交流会が3月12日(土)に江古田校舎の学食にて大勢の卒業生を迎え盛大に行われました。これは卒業制作展の一環として、そのオープン初日に毎年開催されているものです。OB・OGから学生時代の思い出話や学生に向けたメッセージあり、学生から卒業生へは仕事や就職などについての質問あり、軽い食事と飲み物を取りながら今年も大いに盛り上がりました。



あなたの作品おまちします

第41回土日会展：

絵画作品を公募しています

会 期 2016(H28)年12月7日(水)～
12月19日(月)

会 場 国立新美術館1階展示室1A室

搬 入 11月25日(金)

問合せ 土日会事務局

0422-48-1007 T&F

遠慮なくお問合せください

事務局 三浦裕之

日大芸油院生～卒生約60名出品

総会のご案内

(株)スタジオ・マイ▶1973年設立。ビジュアルから立体に至る、デザイン全般を受け持つ。

(株)スピーチ・バルーン▶1985年、スタジオ・マイの出版部門として発足。杉並アニメーションミュージアムにて開催の「SHOTARO SQUARE」展の設営をしました。ぜひ、足をお運びください。

【会期：4月20日(水)～7月10日(日) ※入場無料】

(株)スタジオ・マイ ☎03-5999-8611

(株)スピーチ・バルーン ☎03-5999-6911

<http://www.my1973.com>

design:スタジオ・マイ

編 集 後 記

ディープラーニングによる人工知能の進化はめまぐるしく、グーグルフォトが自動生成するビデオが、凡庸な学生の作より格好良いという敗北感……そのうち、人工知能の書く小説のほうが文芸学科の学生より人の心を打ちかねない危機感をつのらせています。

(青木)

8つのアート1つのハート



日本大学藝術学部

日本大学芸術学部校友会会報・第96号

2016年春季号●平成28年5月発行●

●編集人 会報編集委員会

●発行人 綾部東洋子

●広報担当 西垣仁美 鳥山正晴 笹井祐子
川上 央 青木敬士 原 一平
茅原良平 長瀬浩明

●発行所 日本大学芸術学部校友会
東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術学部に
電話 (03) 3554-5363
事務担当 北嶋 留美子

●印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷 3-43-16
成田ビル
電話 03-3814-1225

非売品

不許可転載

●表 紙

平成 27 年度写真学科卒業制作
氏 名：叶麗 (ヨウレイ) (YE Li)
タイトル：絲綢之路・《一萬公里の西遊・記》
英 訳：The Silk Road・
《10,000 km journey to the west》

8つのアート1つのハート

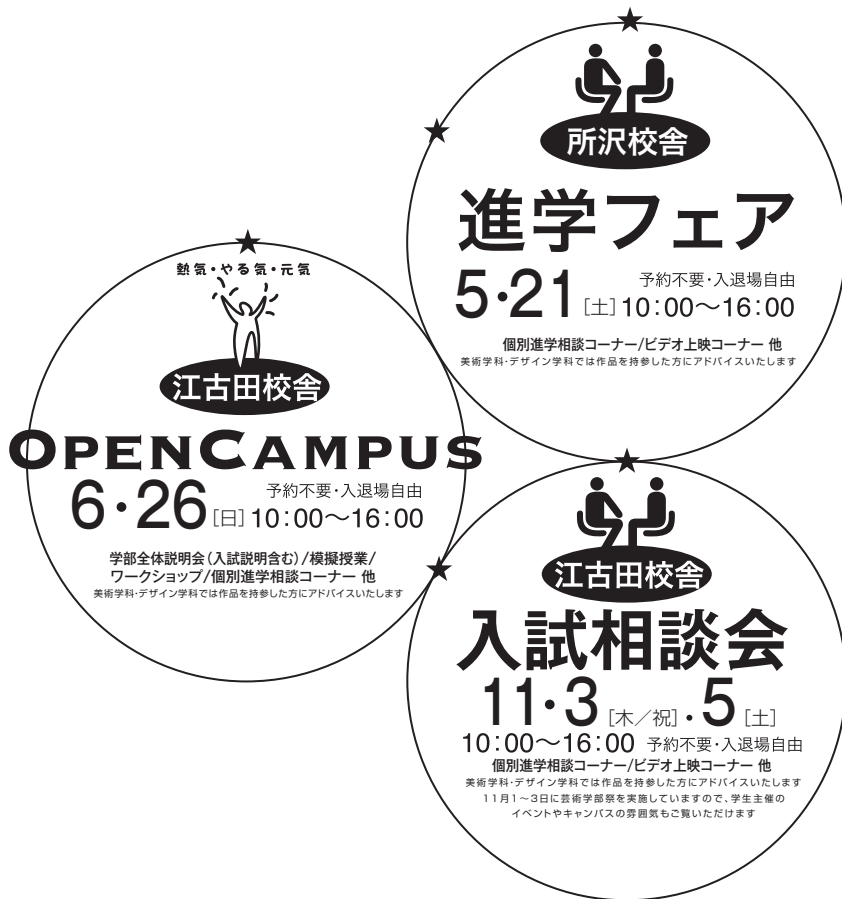
日本大学藝術学部

Photography/Cinema/FineArts/Music/LiteraryArts/Theatre/Broadcasting/Design

◆ 大学 院 芸 術 学 研 究 科 ◆

◇ 博士前期課程／文芸学専攻／映像芸術専攻／造形芸術専攻／音楽芸術専攻／舞台芸術専攻

◇ 博士後期課程／芸術専攻



8つのアート1つのハート

N U
Nihon University College of Art
A r t

日本大学藝術学部

<http://www.art.nihon-u.ac.jp/>

■ 江古田校舎 練馬区旭丘2-42-1 TEL.03-5995-8282 ■ 所沢校舎 所沢市中富南4-21 TEL.04-2993-2212